

舞鶴市市史編さん委員会近世部会第2回会議
及び同部会城と城下町グループ第1回会議 議事要録

- 日 時：令和6年11月9日（土）10時30分～12時
- 場 所：舞鶴西総合会館4階411会議室 （吉野、稲穂、森島委員はオンラインによる出席）
- 出席者：廣瀬部会長、東副部会長、吉野委員、稲穂委員、森島委員
- 舞鶴市：生涯学習部文化振興課（田中係長、石原、吉岡）

《次第》

- 1 開会
- 2 部会委員紹介
- 3 協議事項
 - (1)資料編・近世及び分野編・城と城下町の構成（テーマ・章立て等）について
 - (2)執筆者等の推薦について
 - (3)その他
- 4 今後の予定等
- 5 閉会

《概要》

【協議事項】

- (1)資料編・近世及び分野編・城と城下町の構成（テーマ・章立て等）について
 - ◎資料3分野編「城と城下町」構成（たたき台）について、各記入者から説明された。
 - ・先日郷土資料館にて、城下町の町民が周辺の新田開発をしているという資料があり面白いと思った。
 - ・内容はほとんど網羅されていると思う。近世編の方では、江戸の初期と幕末を入れる話になっていたと思うが、城下町編の方は、明治のどの辺りまで入れる感じか。
 - ・近世は細川が入ってきたところが始まりで、江戸時代いっぱいまでという切り方をしたと思うので、城と城下町もそれに準じたイメージである。
 - ・城と城下町にとっての近代に繋がる部分というのは大事であり、その辺りの様子は少し城下町編の中にも入れていいと思う。また、学問と教育で野田笛浦や新宮涼庭など人にスポットをあてて、一つにまとめることは非常にわかりやすくいいと感じた。
 - ・自分の関心としては、田辺城の普請のところである。田辺城の始まりがよくわかっていないところがあり、田辺城がいつできたか調べてみる必要があると思っている。また、舞鶴が非常に低湿地であり、治水ということがすごく大事だと思う。今の潮位だと当時の城下町の地表面が水面下になってしまうが、どうしていたのか治水に関心がある。町人の生活のところで、消費生活みたいなところ、市場とかも少し触れられると面白い。
 - ・100個テーマがなくても、叙述であれば数を揃えることはそれほど考えなくてもよい。やっていく間に、次々と新しいものが出てくるとは思うので、とりあえず今の意見も含めてスタートしていいと思う。メールで、田辺城の上の部分、

建物、屋敷の部分がもう少しあればという意見があった。

- ・図面などでわかると思うが、どれくらい立体的にできるかわからないが、城の様子や城をどう使っていたかがわかって面白いと思う。また、その城が最終的にどのように廃城化され公園化されていくのかも面白く、明治期の先ほどの話にも繋がると思う。
- ・城と城下町編の章立てについて、一つ目が、田辺城の普請と形、田辺城の構造とか使われ方みたいなもの、二つ目が藩主細川、京極、牧野について、それとそこに仕えていた藩士たちの仕事や生活ぶり。次に城下町の形、次に城下町がどのように運営されていたかという行政のあり方、そこに住む城下町の人たちの生業と生活みたいな話、宗教として一つの項目、学問と教育で一つの項目としてとりあえず七つの章立てにしたが、このような章立てでよいか。
- ・章の数は決めていたか。
●事務局／特に決めていない。
- ・ここに入らないものがまた出てくれば、章の名前を変えるほか、別の章とし立てられるようであれば、いくつか立ててもよいと思う。最初の方から田辺城の形、藩主、城下町で生業がきて、生活がきて、宗教、文化、教育と順番的にもいいと感じた。
- ・この章立てでスタートして、様子によってまたその都度変更していく形でいきたいと思う。
- ・「細川幽斉と舞鶴」を作ったときに、マップを添付したと思う。今のお城と昔のお城がわかる地図をつけていたと思う。地図を入れるなり、本の一部にして、今との関係性がわかる地図がどこかにあるとわかりやすいと思う。例えば地図を折り込んで、目次的に10番はこの話、12番はこの話みたいなことで、それを見ると城下町の場所がわかる工夫があってもいいと思った。
- ・その通りだと思う。堀がどこを巡っているのかということも多分初めて触れる方はすごく気になる。例えば竹屋町文書が何度も出てくるが、竹屋町がどこなのか地図化しておいた方がよい。
- ・宮津の街歩きをよくしていたが、地名の由来とか細い路地の地元での名前みたいなものが結構ウケる。地図に出ていないような小さい路地、地元の人はこの路地をこう言っていますとか、竹屋町などの町名の由来なども入れてもいいと思う。

◎資料2 資料編「近世」構成（たたき台）について、各記入者から説明された。

- ・田辺籠城戦は私も両方にあっていると思う。政治的な位置づけみたいな部分を資料編で、その地域にとってどういう影響があったのかみたいな話を城下町編の方に持っていく、そういうような分け方でもいいと思う。また、村の生活のところで、年中行事などの資料が結構残っているのが面白いと思った。例えば年中行事を一つ作って、その中からさらに面白いものを個別に出すのもいいと思うし、年中行事1、2、3、4みたいな感じで春夏秋冬に分け、当時の村の人が何をしていたのか、年中行事のところは書ける範囲で詳しく書いてボリュームを膨らましてもいいと思う。また、街道筋の村と川筋の村、山の中の村と海沿いの村、舞鶴には全部あるので、なかなか書き分けが難しいかもしれないけれど、何かそういうところでの違いが、もし分かればいいと思った。城と城下町編にするのか、近世資料編にするのかというところで、歴代藩主の治績というのはどこかで入れてもいいと思う。各歴代に1ページとかはちょっと大きいと

思うので、例えば何人かまとめてもいいと思う。幕末のお殿さんや、松平定信の寛政の改革で関わってくるお殿さんなど、何人かやっぱり取り上げるべきお殿さんはいると思う。

- 歴代藩主で、例えば京都所司代の英成とかは大きな存在と思うが、どちらに入れたらよいか。
- 政治的な部分が大きくなってくると近世編の方に入れる方がいいと思う。藩主の治績みたいなのは近世編に、地域との繋がりみたいなものが強い部分や、藩主の普段の生活などは、先ほど提案があったように城下町編の方に入れてもいいと思う。参勤交代とか微妙な部分もあるとは思いますが、大きく分けて政治的な部分はこちら、地域に近いところや文化的な部分はこっちとか、何かそういう分け方でもいいというふうに感じた。
- 心学はどちらにも入っているが、どちらか一方でいいような気がする。どちらに入れたらよいか。
- 地域を越えていくようなネットワークや関係性がより強く書けそうな場合は近世編に、逆により地域に密着したような話として書けそうな場合は城下町編でいいと思う。どちらかと言われれば近世編でいいと思う。
- 町在両方に関わっているから、近世編に入れた方がいいと思う。
- 孝子伝にも関わる内容なので、近世編の方がいいかもしれない。もう一点、去年松尾寺仁王門の発掘調査があった。すごくフレッシュな題材であると思うが、これ以外に近世編に入るような発掘など何か思い当たることはないか。
- 近世の生活の中で、葬送儀礼みたいなのが何か書けないのかなと思う。今京都の南の方で近世の墓地を掘っていて、近世のお墓ってだいたい座棺の土葬が多いと思っていたら、そこは全部が火葬墓であった。病気とか介護とか死んだ後のその辺がお寺との関係とかもあり面白いと思う。
- 舞鶴地域の両墓制の話は大事であり入れたらいいと思う。多分菅原先生が北前船の過去の埋葬か何かの話の中で少し触れておられたと思う。埋葬方法や埋める墓とお参りする墓の話とか一部引用されていたと思う。
- 近世墓地の石造物の調査はされているのか。
- 事務局／真下克巳さんの調査報告書があり、また、多祢寺の大般若経の中に葬送のことをざっと裏書で書いた一塊があったと記憶している。
- 私も細かく見たことはないが、葬式の時の記録やお寺との関係を記した書類というのは大体どの家の文書でもあると思う。墓制まで詳しく書けるかはわからないが、文書からもある程度は書けるのではないかなと思う。お墓の部分は非常に大事なので入れていいと思う。
- 一生みたいところで、墓制や結婚とかも含めて、生活面でいろいろあると思う。少し民俗とかぶるかもしれないがこのテーマができたらいと思う。章立てでは、今のところは環境が災害だけ、あと信仰も1項目しかない。村の生活のところは、城下町編には町と城下町が入っており、資料編だけ見る人はあまりいないかもしれないが、「村の生活」よりは「生活の何か」という他の形にして少しは町と城下町のことを入れた方がいいと思う。また、支配のところも基本的な藩主のことももう少し入れる必要があると思う。また、既刊市史に繋がっていくために、既刊市史のどこそこを書いていきますと書くとか、ネット上なら簡単にリンクできるなど、旧市史と合体させたような形の何か仕組みも必要だと思う。詳しくはとか、新しくわかったことはなども含めて考えていく必要

があると思う。

- ・章立てについては、よくまとめていただいております、わかりやすいと思う。環境など章の項目が少ないところもあるが、今後増やしていけばいいし、あまり膨らまない時はどこかと合併してもいいと思う。既刊市史との関係の部分とか、これからもっと調べたい人に向けて、繋がりポイントとなるような見開きのページになっていくとすごくいいと思う。既刊市史を全て踏襲する必要はもちろんじゃないと思うが、ある程度ちょっとイメージしながら書いていけるといいと思った。
- ・まるまる舞鶴での地方史研究会の論文のように、参考文献等をリンクし各種資料とつなぐ形をつくれるといいと思う。
- ・新修尼崎市史を作った方と話をする機会があり、舞鶴市史が今回目指しているものとかかなり似ているように感じた。その中でその市史を読んでもらった方の関心がいろいろあるから、いろいろな人の関心にそれぞれリンクできるようにしておくことが大事だという話があった。例えば中学生にも読めるというのは一つの考え方だが、中学生しか読まないことになるので、もっと知りたい人はこっちにとか、まるまる舞鶴でもっと詳しいことがありますなど結節点になるような形で、まずは興味を持つ第1段階として入ってもらえるページになるとすごく面白いと思う。
- ・きっかけとか入口とかになるような形にできたらいいと思う。
- ・先ほど川筋や山間の村などの村の生業の違いみたいな話があったが、MANDARAというソフトの使い方を教えてもらって、土目録から川筋の村はどんな運上があるのかというデータも作れると思った。また、章立てについて、裁判資料からという章立てはちょっと異質な感じがしており、裁判資料の中でも裁判の仕組みや経理は支配の中身に入るが、内容としては支配に入らないようないろんな話が出てくると思っている。
- ・まとめる的には支配に入れているが、具体的な事件などは、城下町に入れたらいいと思う。
- ・郷土資料館で目録をめくっていて、多分池内小近辺だったと思うが、鮎漁の文書が数件あったので、川筋の村の生業としては面白いかもしれない。
- ・赤野村検地帳だったと思うが、金沢で見つけてきて購入した。写本であったが、この機会に資料として使えることができればと思う。
- ・意外と農業の話は少ないので、新しい資料を使いながら、年貢税制も含めて一つ入れていいと思う。いろいろと意見をいただいたので、第二次案を作成したいと思う。

(2) 執筆者等の推薦について

- ・城と城下町編の叙述の仕方を、資料編と同じように見開き1テーマにした方がいいのか。執筆者を選ぶ上で随分違ってくると思うがどうか。
- ・私も個人的には見開きがいいが、旧軍港編や引揚港編の他の分野編もある。それぞれの分野編毎に検討したらいいと思うが、事務局はどうか。
●事務局／基本は執筆要項に書いている形でと考えているが、取り扱う中身も違うので、わかりやすい読みよいということを前提に、それぞれの部会で決めていただけたらいいと思う。
- ・見開き2ページ1テーマにするとあまり深掘りができない部分は出てくると思う

が、読みやすいという部分はある。どちらかに決めておいた方がいいと思うが、ご意見をいただきたい。

- どちらもメリットデメリットがあると思う。ある程度の深掘りをした方がいい部分はあると思うが、見開きだとちょっと難しい。例えば章の最初に総論みたいな部分で、例えば4ページなり6ページぐらいでまとめてちょっと深掘りをできるところ、あとは見開きみたいな折衷的な方法もあると思う。
- 短い単位でわかれていて、1項目ずつ読める方がより多くの人に手に取ってもらえたり、読んでももらえたりするが、やはり深く書きたいところがあるので、折衷的な方がいいと思う。
- 尼崎市史のウェブを見ていたが、折衷的に最初は総論的なものがあって、見開きのページが続くみたいな形で、ちょっと書きたいテーマは2ページにとどまらずに、長くてもいいと思う。
- 資料編の方も必ずしも見開き1テーマでなく、4ページも可能っていうふうにはなっており、少しは深掘りができる部分はある。分野編は、その部分を資料編よりも大きく認めるみたいな形とするか。また、章の最初に4ページとか6ページぐらいを使って、全体のあらましみたいなのを書くというが、そこに書かれる内容はどんな内容になるのか。テーマの要約みたいな感じか。
- 見開きの部分の要約というよりも、例えば時代背景やその周辺との関わりみたいな、少し大きな部分を落とし込めば、各見開きのところでいちいち書かなくてもいいということにもなると思う。
- 尼崎市史では、最初にこの節を理解するためにという項目がある。その章なり節を理解するための前提となる基本的な、全国的な動向を説明できたらいいのかなと思う。
- 良いアイディアを出していただいたと思う。最初にあらましの部分というか時代背景などを入れ、その上で見開き1テーマとし、頁数はある程度柔軟に4ページになる場合もあるという形でまとめたいと思う。執筆者についてご意見があればお願いしたい。
- 菅原先生は長年調査に携わられており、どこか書いていただけるといいと思う。
- 菅原さんのお弟子さんも安久家調査に来ていただいております、今は方々で活躍されているので、お声掛けしてもいいと思う。今まで書いたものをブラッシュアップして出していただくということであれば、そこまで負担にはならないと思う。また、今後資料調査を進めていくことになるが、大学院生にちょっと見越して入っていただきながら、実際書いてもらうっていうのもいいと思う。
- 前回あった熊本大学の稲葉先生への執筆依頼についてはどうか。
- ぜひお願いしたい。永青文庫で新しい信長の手記が出たとニュースになっていたが、寛永ぐらいまでの調査がおおよそ一段落したようで、舞鶴にいたのはもう少し前の話だが、以前「細川幽斎と舞鶴」を書いていただいた時から、さらに使える資料が増えていると思うので、稲葉さんにお声掛けすればいいと思う。また、能番組は非常に面白いと思う。伊藤太さんなど興味関心のある方はいる。
- 田辺城の普請のあたり、田辺城を復元する①②③は、森島さんに執筆していただけたらと思うがどうか。
- 細川による普請は私が書こうかなと思っているが、田辺城を復元するところ

は、1番発掘調査をやっている吉岡さんしか書けないと思う。

- 伊佐津川の瀬替えは難しいか。
- 資料がないので、イメージがわからない。地理学の人には割と昔の航空写真などを使って、流路を検出したりすると聞く。
- 伊佐津の瀬替えの話は確かに資料的にはなかなか難しいと思う。一方でそれを伴った形で今の城下が成立しているので書かないわけにはいかない。書いてみて見開きでいければよいと思うが、難しいのであれば、最初の総論の方に入れ込んでもいいと思う。
- 執筆担当について、まだテーマが微妙に流動しているので、回しながら調整する形で、改めて機会を設けた方がいいと思う。
- 宗教や学問に少し関心があって調べていて、少しやってみたいと思うのは藩主と藩士の辺りで、また皆さんと相談したい。
- テーマの時と同じような形で、個別に執筆者候補を入力していただいて、回させていただきたい。それがある程度出揃った段階で、もう1回この専門部会をする必要があるのか、またいつ頃設定する予定か確認したい。
- 事務局／もう1回部会開催を年明けぐらいに予定したい。本日の意見を踏まえて資料2と3を再整理し、執筆者も一応案として当て込んだものを資料として考えている。

以上